

NPO 法人 純正律音楽研究会会報 ～2020年5月発行～

# ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東3-2-5-102 Tel:03-5317-0291  
Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 2020年5月29日  
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会  
編集 相坂政夫

## No.64



うっすらと汗ばむほどの陽気が、本格的な夏の近いことを知らせている今日この頃、如何お過ごしでしょうか。

今年は新型コロナウイルス感染拡大、緊急事態宣言まで出され一時都会が閑散となりましたが、先日緊急事態宣言「全面解除」が表明されました。

しかしながら当会主催 6月のデュオで楽しむヴァイオリン名曲集「出版記念コンサート3」は、3月に続いて中止となりました。楽しみにされている皆様、誠に申し訳ございませんでした。

次回9月26日のコンサートは開催できるかどうかわかりませんが、現在準備しております。会場は市川のヤマザキパンクリエーションセンター内「LLCホール」になります。12月もコンサート開催予定をしておりますが、コロナの関係で、会場が決定しておりません。

来年3月6日のコンサート開催は決定しております。会場はヤマザキパンクリエーションセンターになります。

緊急事態宣言「全面解除」になりましたが、感染経路の中心は飛沫感染、接触感染です。「3つの密」の回避、マスクの着用、石鹸による手洗い等に気をつけて元気にお過ごしください。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 新型コロナウイルスの影響

洗足音楽大学教授・ヴァイオリニスト  
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表  
水野佐知香

会員の皆様いかがお過ごしですか？

緊急事態宣言が出て、全てのコンサートが中止になり1ヶ月半、すっかり夏に近づいています。

そして遂に、緊急事態宣言も解除され、「新たな日常」「新しい生活様式」が求められています。新型コロナウイルスの影響で、大学の授業、プライベートレッスンも全てWEBになりました。

緊急事態宣言が出てしばらくは、先も見えず学生さんたちとのレッスンの仕方もわからなく、途方にくれましたが、リモートもなかなか面白いことがわかり、今はとても楽しんでます。

はじめはiPadにしがみつき、集中して見て聴いているため、首や目が痛くなり、身体がこわばり、これはもう体力的に沢山のレッスンができなくどうしよう？と思っていました。だんだんアイデアが湧き、TVに繋いだら？スピーカーに繋いだら？iPadの位置を固定するものはないかしら？椅子は？TVを置く高さは？と、このひと月半で、レッスン室は様変わり！高めのテーブルの上に23インチのTVを置きその横に立てたマイクスタンドにiPadを固定し、TVの前にはこのために新しくしたパソコンを置き、もうすでに何の部屋か分かりません。（笑）

長時間TVの画面を見つめたりしていることで、しばらくは首と頭が痛かったのですが、骨盤で立て「坐骨」で座る、姿勢をよくして集中力をアップする椅子との出会いがあり、おかげさまで快適にリモートレッスンや会議ができるようになりました。地方の生徒さんも、移動時間もなく家でレッスンが受けられるので、とても喜んでるようです。

ちょうど8年前、純正律音楽研究会の玉木宏樹氏が亡くなる直前に、iPadを初めて買い、パソコンについての知識が何もない私に、玉木さんの亡くなる直前の生徒さんで、アップルの日本初代社長の武内重親氏よりMacの手ほどきを受けましたが、ここに来てまた少しずつ進歩したようです。

リモートレッスンにリモート会議、zoom？Google meet？とにかく知らない単語ばかり！でも自粛のおかげで、少し成長しました。使えるようになるものです。やはり一生勉強です。痛感しました。

玉木さんもMacを使いこなしていて、玉木さんの財産が詰まっていたようです。パスワードがわからなく事務局長の相坂さんは苦勞されていました。

この自粛の中、教育を止めない、このコロナの時期を利用してスキルアップをする！ということで、合奏授業も1人1人のオーケストラスタディの勉強をしています。この自粛から解放された時のコンサートのために準備をしています。

そして、自粛、自粛でコンサート活動が世界中で止まっています。ドイツなども8月いっぱいまでコンサート中止と決まっています。音楽事務所もとても大変な危機を迎えています。しかし政府の方針が出て、日本でも徐々にコンサートなど解禁になりそうです。奏者の間隔をお互い2メートルあけて、お客様も列を開けて座っていただく。どんな感じになるのでしょうか？

何か自粛生活が慣れてきて、普段の生活に戻るのにも体力がいりそうで(笑)

純正律音楽研究会の6月のコンサートも中止になってしまいましたが、気軽に何も考えないで行動できる、自由に過ごせる日々が来ることを祈りつつ！

9月のコンサートでお目にかからせていただけることを楽しみにしております。

純正律のハーモニーでゆったりと癒されると免疫力アップになります。こんな時こそ、玉木宏樹の音楽です。救われます。

皆さま！お元気でお過ごしください。

### ムッシュ黒木の純正律講座 第63時限目

#### 平均律普及の思想的背景について(52)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

このエッセイでは民主主義思想とキリスト教の関連性について述べてきたが、今回は、コロナ問題について書こうと思う。流石にパンデミックという歴史的な大事件が起こってしまうと流石に触れざるを得ない。

更に、この連載との連続性を押さえる上でも、宗教と病という問題を改めて確認しておきたいという意図もある。

実は、今回のコロナウイルスは保守的な宗教関係者に対してかなり厳しい状況をもたらしているように見える。「信ずるものは救われる」というのは割合よく知られている信仰表明の台詞であるが、今回のコロナウイルスは「信ずるもの」を狙い撃ちにしている感が否めない。

アメリカのバージニア州の福音派の牧師であったジェラルド・グレン氏は、説教で「神はこの恐ろしいウイルスよりも大きいと固く信じる」と熱弁するも、コロナに罹患して死亡。その翌日にバージニア州知事は10人以上での集会をすべて禁止することを発表した。

韓国で感染拡大の引き金を引いたのが、「新天地イエス教会」という宗教団体が大邱市で開催した1000人規模の集会であることもよく知られていることと思う。まさに礼拝は感染を誘発する「密閉」「密集」「密接」の条件にピタリと一致する。韓国はプロテスタント系のキリスト教が浸透していることで有名である。この教団だけではなく、他の教団でも礼拝はコロナウイルスの格好の的になった。

フランスでは、集会が禁止されているにも拘らず復活祭の前夜ミサを強行したパリのサン・ニコラ・デュ・シャルドネ教会が摘発され、司祭が書類送検された。彼らもコロナの脅威よりも神への信仰＝忠誠心を優先したと言えるだろう。この教会は、フランスの極右政党「国民戦線(FN)」の党首であるマリーヌ・ルペンの子供が洗礼を受けたことで知られている。また、何よりも、

第二バチカン公会議の反対にしてラテン語のミサを続けていることでも有名だ。つまり、数多ある教会の中でも保守的な色彩の強い教会ということになる。

宗教団体の長所とは、神の名の下に定期的に集会を開くことにある。例えば、2018年にノーベル平和賞を受賞したデニ・ムクウェゲ医師の活動を記録したドキュメンタリー映画『女を修理する男』という作品がある。コンゴのある村では、鉱山開発の地上げのために業者は軍隊や犯罪組織と結託して女性たちをレイプするという事件が頻発していた。女性の心を折って地域から追い出してしまえば、その村は急激に過疎化し地上げがしやすくなるというのがレイプが横行した理由だという。ムクウェゲ医師は外科医として医学的に被害女性の体の傷を治すだけでなく、心の傷までフォローしようとしており、彼女たちのために学校を作ったり、社会復帰の手助けをしたりしている。また、住民たちを募り、政府や国際社会に対して被害を訴える社会運動を展開している。

映画の中でムクウェゲ医師の父親が牧師であり、社会活動をその父を見て学んだことが明かされる。ここでやはり宗教の持つ力は大きいと感じた。つまり、いきなり反政府集会をやるから集まってくれ、と訴えたところで大勢の人を集めることは難しい。対して、宗教を理由として定期的に人々が集まる機会を持っている社会は、この点で第一関門はクリアしていることになる。まさに、ムクウェゲ医師はまさに日曜ごとに開かれるミサを中心に演説を繰り返し、運動を展開していったのである。

コロナウイルスは、まず、そういった集会に集う信者たちに牙を剥いた。神がいるとするならば、その神は自分の忠実な信徒をまず殺しにかかったということなのだろうか？

## 湾岸のマーラー

NPO 法人 純正律音楽研究会 初代代表  
玉木宏樹遺作

「港の空の色は空きチャンネルに合わせたTVの色だった」で始まるのは、5、6年前に一世を風靡したサイバーパンクSFの旗手、ギブスンの「ニューロマンサー」だ。

この小説には色々驚かされたが、その一つは始まりの舞台が未来のチバ・シティだということだった。猛烈に猥雑で頹廢し切ったテクノポリス・チバでは、人間の生きた臓器の密売まで行なわれているのだ。

ギブスンの奥さんは日本人だが、本人は東京にも来たことはないという。そりゃそうだろうと思ったものだった。少なくとも「ニューロマンサー」を読んだときは…。しかし今やギブソンの設定はあながち間違いではないことが分かってきた。いやひょっとしたらギブソンは未来の千葉をヴィジョンとしてみたのかも知れない。

いま千葉は、とくに千葉港の周辺は、テクノ・ウイルスにとりつかれ急激に汚染されつつある。その汚染地帯のまっただなかを走るのが未来のテクノポリ

スの遊覧電車たる風貌の、生まれたばかりのJR・京葉線である。

その日は本当に気持ちのいい秋晴れだった。自由業の私としては、ポカッとまる一日があくということがある。「小人閑居して不善をなす」という諺があって、下らん奴にヒマを与えるとロクなことを考えないという我が身に照らしても真髓をついた名言だ。さて何とか不善をなさぬよう、こんないい日は戸外にしよう。いまは廃刊となったサンリオSF文庫からケイト・ウィリアムスの「杜松の時」を選び、CDウォークマンにマーラーとブルックナーの両方とも第六番の交響曲を用意する。さて、どこへ....。

これが実は大変だ。私は大の鉄道ファンなので、電車に乗っているかぎり、どこへいくにもうとうとうしく思ったことはほとんどない。だからかえって始末が悪い。無目的に電車に乗るとなると、行きたいところが多すぎるのだ。

出発点は港区。とりあえずは六本木まで歩いて地下鉄の日比谷線に乗る。八丁堀から京葉線に乗って見る気になった。私は子供の時から電車の運転手になるのが夢だった。しかし音楽家になるように教育された私は、夢を果たせなかった恨みをいまでも親に対していただいている。ハハハ....いいおとながいまだに親をうらむとは我ながら情けない話だ。

六本木からの日比谷線はなんとということのない普通の地下鉄だが、八丁堀で乗りかえる京葉線はできたばかりのピカピカの地下駅で、まだ4、5回しか来ていないがそのたびにワクワクドキドキする。私はどちらかという小さな地方私鉄のファンなので、JR線は好きではないが、この線は格別だ。最新土木技術と最新車両、そして通る沿線が湾岸と来れば、これはもうテクノピアの遊覧電車だ。すぐ来た各停の電車に乗る。入ってきた車両は色分けも京浜東北色の古い電車で新しいレールを汚すような妙な気分になる。八丁堀のつぎは「越中島」。地上にでると道の片側はずうっと商船大学だ。開通の日に降りてみたが大学は春休みとあって全く利用客の少ない駅だった。大学以外にはなにもないところだが、二三年後には大変貌をとげることだろう。

「越中島」をでてしばらくすると電車は地上へでた。小さな川をはさんで対岸には大きな貨物ヤードが広がっている。しかし線路はつながってはいない。つながっていれば、亀戸方面へむかう連絡線も運行できるのに、などと鉄道ファンの私は妄想するのである。よく考えれば、こんなところから亀戸へつないでもだれが利用するのだろうか。またもし将来つながつてもりなら、JRのことだからその気になればすぐにできるだろう。余計な心配をすることはなさそうだ。

「ウディランド」とかかって木の匂いをふんだんに振りまく「潮見」駅をすぎると電車は高い高架をのぼりつめ、大きく左へカーブして地下鉄との連絡駅「新木場」へむかう。このジェットコースターのような橋げたの下には首都高が走っている。車の流れをとめないでこの巨大な橋げたを渡すには大変苦労したそうだ。もし失敗していたら広島事故どころではなかっただろうと思うと壮観壮観とばかりも言っていられない。

さて電車は左へカーブして「新木場」へむかうが、一方、新木場からまっすぐに高速道路沿いに鉄道用の構造が品川方面に延びている。まだコンクリートだけで電車は走っていない。こういう構造物を鉄道技術者たちは「ドンガラ」と呼ぶそうだ。その道にはその道の妙な隠語があるもんだと感心させられる。

京葉線は国鉄時代に「新木場」と「千葉みなと」の間が開通してしまい、「ディズニーランド」へいく電車として脚光を浴びているが、私は「ディズニーランド」には何の興味もない。その後、新木場の「夢の島公園」、葛西臨海公園の「まぐろの泳ぐ水族館」等ができて、すっかりレジャー電車としての地保を固めつつあるが、私の興味は少し違う。大きくいえば、これらすべてをひっくるめて、幕張メッセ、千葉港まで延びて行く大変貌をとげる東京湾が一望のもとに見渡せるということにあるのだ。おおげさにいえば、21世紀テクノトピアのイリュージョンと実像が見えてくるというわけだ。

日野啓三というおじん作家は「夢の島」というだらしのない小説で、埋立地に視線を移すと東京の別の顔が見えてくるということをつとくと書き、その変貌を現実の皮膚感覚にしている若者との感性の隙間を描いて大得意になっているが、それは単に出不精のおっさんが出くわした陳腐なカルチャーショックにすぎない。私は車と飛行機が大嫌いで、鉄道と船のファンだから、日の出桟橋からの晴海行とかお台場公園行の船にはよく乗るので、東京湾の変化の激しさとか、その時流にのった商売人とか、冬のさ中からサーフィンする若者たちの姿を良く見ている。

いま東京は、どんどんと海の方へ進出している。山手線の内側の東京の中樞を消化器官とするとその貪欲な食欲を満たすのは東京湾なのだ。グロテスクな巨大怪獣「東京」は湾岸にその大口をあけてすべてを飲み込もうとしているのだ。

外国の艦船を迎え撃つために急造した人工要塞のお台場同士の間隔は驚くほど近かった。当時の日本の大砲の射程距離が短かったためだ。ただ一つ開放されているお台場公園に寝転がってショスタコビッチの「死者の歌」を聴いたのはいつのことだっけ....。

私も昔は車に乗っていたことがあった。しかし都内で車に乗っていていい思いをしたことはほとんどない。回りに見えるのは人と車と信号ばかり。ただでさえイライラする性格の上に情緒不安定が加味され、このままでは大事故を起こすという危険を覚え、車をやめた。たいていの人にはなぜあんなに混んでいても平気で車に乗れるのだろうか。高速道路の十キロを越える渋滞は当たり前のようにだし、時々入ってくるラジオの交通ニュースの渋滞度はもう異常の域を越えてしまっている。それでもなお車を捨てない人たちの感覚はどうなっているのだろうか。ドアツードアというイリュージョン、荷物があるからという言いわけ、もしかしたら道がすいているかもしれないという幻想....、こんなものは車にしがみつくと理由にはならない。うちが狭いからせめて車でも....と言うのもわざとらしい。

私が考える本当の理由、それは移動する空間を人の指図を受けずに確保したいということだと思う。だから特別、自分だけの空間に金をかけて高級車というイメージで塗り固めたいというわけだ。つまり想像力のない人たちは電車という空間を、いやいや乗らねばならぬ貧乏人用の拘束車と思っているわけだ。だから「道路」という誰のものでもない空間を一次的に占拠しながら移動することに異常なる解放感を覚えているのだと思う。その感激の代償には、十キロの渋滞くらい何でもないというわけだ。

改めて電車に乗りだして気づいたことは、圧倒的に時間が自由になることである。本を読もうと考え事をしよう人間観察をしよう何をしてもいいのだ。ハンドルとアクセルとブレーキと信号に気を使う必要は全くない。そして反射的にパトカーを恐れなくてもすむようになる。中でも私の一番好きなのは窓からのながめだ。大体地方の鉄道に乗れば分かるが、窓外の景色と言うものを道路とくらべれば圧倒的に歴史の流れが感じられる。そしていま乗っている京葉線では、未来空間の変貌の兆しがくっきりとみえてくるのだ。

それにしても、日頃、常に質素で地味で謙虚な人が豪華な外車に乗っていても別段おかしいと思わないということはどこか異常ではないだろうか。車大好きの人に言ったことがある。「強制的に空間を占拠して、大気を汚染して、時間を無駄にして、車のどこがいいんだ」するとみごとに逆襲された。

「よく言うよ、鉄道なんて、植民地掠奪の帝国主義者の道具そのものじゃないか」うーん.....、話はもとへ戻して。電車に乗ると、驚くほど時間は自由になるし、読書量も増え、そこそこ歩き回るようにもなる。すると、何かが見えてくる。文化の拠点をつなぐラインが鉄道一本の開通によってどれだけ変わるか、それは大変なものだ。

都営地下鉄新宿線が開通した当時、さる有名人が、神保町で古本を見て、人形町で食事して、東銀座で歌舞伎を見て多摩のうちへ帰るということが一本の沿線で出来るなんて夢にも思わなかった、遠いと思っていた文化が近くに引き寄せられたと書いていたが、そのとおりだ。東京地下駅に乗り入れた武蔵野線の電車に乗れば南船橋のオートレース、地方競馬、船橋法典の中山競馬を始めとして、浦和の競馬場、府中の東京競馬場と、まるでギャンブル環状線を形成しているのだから面白い。

さて、目的無しに京葉線に乗り、新木場まで来たわけだが、この線に乗れば自然と目的の駅が見えてくる。それはディズニーランドでもなければ葛西臨海公園でもないし、ブッシュにまで知れわたった幕張メッセですらない。私の目指すのは「千葉みなと」という、一見何でもない駅なのだ。東京ベイシティ・エリアなどと脚光を浴びているのは浦安からせいぜい幕張メッセまでだろうが、どっこい、この湾岸開発のドン詰まりに人知れず、ものすごさを秘めているのが、千葉みなとなのだ。

ひらがなで「みなと」などと表記されていると大概の人は、遊覧船の舟つき場くらいにしか思わないのではなかろうか。確かに「千葉みなと」から「蘇我」へ向かう浜べには千葉の海上保安庁の船が留めてあったりするので港の規模を錯覚しそうだ。しかしこの恐ろしく謙虚な駅名にもかかわらず、千葉港の実態たるや、いまや荷物取り扱い量がついに神戸を抜きさって全国一位となっている。ゆめゆめ間違いなく.....横浜を抜いてではなく、神戸を抜いてである。横浜はとっくに港の機能を縮小しているようなのだ。

世界に脚光を浴びている幕張メッセに比べると「千葉みなと」の駅前の何と貧弱なこと。まるで何もない淋しい通りからは、ギブスのサイバーパンクの匂いなど何もない。車もあまり通らない道を少し蘇我の方へ歩き、右折すると、風景は怪しさを帯びてくる。道路はひろい。もちろんこれから街作りをすることでところなのだが、なぜかすえ切ったような、古臭い、カビ臭いフレイキが充満し

ているように思える。建物はみんな新しいのだが.....。

大きな郵便局の向こうには五年くらい前に出来た千葉県立美術館がある。ぜいたくな敷地にそう背の高くない品のいい茶色の建物。いやみごとなものである。だが中にはいってみると何か居心地の悪い違和感を覚える。まだ建って五年くらいのはずなのにこの美術館はもう五十年くらい前から建っているようなおじん臭い匂いがあるのだ。中に常設してある絵にしてもそうだ。絵自体は立派な油絵なのだが、こんな潮風のま近くに架けておいていいものなのだろうか。表にでると向かいには妙にアール・デコボコした建物だ。これはさる結婚式場チェーンのものなのだが、なんともいえないこのバランスの悪さが未来のテクノポリスの居心地の悪さを象徴しているような気になってくるのだ。美術館の裏側には千葉港一周の遊覧船の舟つき場がある。前に来たときは三時ころが最終で乗りそこなったので急ぎ足で着いてみると、またしても出たあとだった。この乗り場の建物というのがまるで釣り客を乗せる船の溜まり場、もしくは荷物かつぎのおばさんたちを運ぶフェリーの乗り場のような猥雑さで、とても日本一の巨大な港を観光させるようなフニキは毛の先ほども感じられない。変に沈滞した待合室には、くたびれ切った労働者風の人達がいぎたなくたむろして何やら密談を交わしている。チグハグで居心地の悪い感じというのは、この風景に集約されているのではないだろうか。つまり、テクノ化の波がつい目の前にまで及んでいるのにそれを全く意識しない人たち（三時前に遊覧船の終わってしまう船会社を含め）の集団がいるということなのだ。

いくらハイテクの施設を造ってもしょせん千葉だから....と言うわけでは決してない。多摩ニュータウンでもそうだった。開発直前の多摩の農家の庭先にぶら下がっていた色鮮やかな吊るし柿の写真はいまでも脳裏に焼きついている。コンピュータ・ウイルスと同様にテクノ・ウイルスというのがあるのではないだろうか。多摩ニュータウン時代のテクノ・ウイルスはまだまだ繁殖力の弱いものだった。しかしいまのベイ・エリアに住み着いたテクノ・ウイルスはそのうち猛威をふるうだろう。こんなウィークデーの遊覧船の待合室は一見いなかくさく、ひなびたように見えるが、ウイルスは意識的にこの場所を避けているだけではないだろうか。

待合室を出る。目に襲いかかるものがある。秋晴れで雲ひとつない気持ちのよい青空にもものみごとに威圧的にそびえ立つのは、壁面すべてをガラスで被った長方形の千葉ポートタワーだ。今日は一段と輝かしく太陽を反射し、クリスタルな壮観さを誇っている。しかしこれも外面だけだ。内部は驚くほどいなか臭い。中に展示されている、埋立てる前のこのあたりのパノラマ写真を見ると、浦安近辺にくらべ、いとも簡単にテクノ化の波に負けた様子がよく見える。しかしうまく消化されないままのいなか臭さは、いささか怨念じみて内部空間にすくだまっている。だから、どのフロアに焼鳥屋やおでん屋が出てきても一向に不思議ではない。しかし、クリスタル要塞に巣食ったテクノ・ウイルスは明らかにその繁殖のチャンスをうかがっているのだ。

公園に出る散歩道に出ると、パトカーがとまっていた。回りに人は全然いないからいやでも私の存在は目立つ。パトカーはだまって停車したままだったが、私が通りすぎてしばらくすると、ソロソロと動きだした。私を追い越すときに



も何やら二人の警官は話し合っている様子だった。なにせ真昼間のことだ。向こうとしても職務質問するようなきっかけもないらしい。

私はタワーのふもとに広がる芝生の公園に大の字になり、ブルックナーの六番をウォークマンにセットした。タワーのクリスタル壁面の反射はギラギラとおぞましく、まるで子供のときに遊んだ太陽レンズのようだ。サンリオSF文庫の何かの表紙にそっくりのタワーだなあ等と思いながら、ケイト・ウィリアムスの「杜松の時」のページを開く。視界のはしをパトカーがよぎる。公園を一周してなおかつ、私の様子をうかがっているのかも知れない。

ブルックナーの6番は芒洋とした牧歌調の曲だ。牧歌調----ボッカチョ----スッペなどという言語障害地獄のものともしない堂々とした大がかりな牧歌調だ。しかし不本意なことに寝転がって見上げる空の青さにはブルックナーの音楽はマッチしない。一度ウォークマンで同じような体験をすれば分かることなのだが、彼の音楽はひたすら地上的な牧歌調であり、視点を地上の芝生の緑に移せばみごとに調和する。彼の音楽には恣意的な天国性などありえないのだ。ブルックナーの前ではクリスタルの要塞ですら自然現象のように見えてくるから不思議だ。イギリスの評論家、コリン・ウィルソンはブルックナーの音楽のことを、ただ自然現象の感じを出させるのが精一杯で、夕立のように非個性的だと看破している。しかし夕立のような爽やかさも少し違うようだ。

村上春樹はラベルのボレロを聴きながら小便をすると延々と止まらないような気がすると書いているが、ブルックナーの音楽を聴きながら野糞をするとあたり一面香りの園になってしまうだろう。しかしブルックナーに罪があるわけではない。120年も前にウォークマンの出現など想像できるわけないし、青空に向かって演奏するなんて考えもつかなかっただろう。ブルックナーの音楽をBGにして読みだしたケイト・ウィリアムスの「杜松の時」は実に変ったSFだ。アメリカ人にもかかわらず、深く沈潜するクワイSFばかり書き、ほとんど売れていない。この小説もアメリカ・インディアンと共生する女流言語学者の話だ。宇宙人からのメッセージらしきものの真贋をめぐり、昔の仲間が砂漠の奥のインディアン部落まで彼女をたずねてくる。彼女は言語の裏にひそむ人間のアイデンティティをインディアンの霊的生活に託しているのだ。言葉の錬金術師は人類を救えるか.....。

あたりには一人一人なく風も雲もない。まるでブルックナーの垂れ流す牧歌剤に回り一帯がまみれてしまったようだ。一時間近くブルックナーを聴いたあとマーラーの六番に変えたとたん陽がかげりだした。

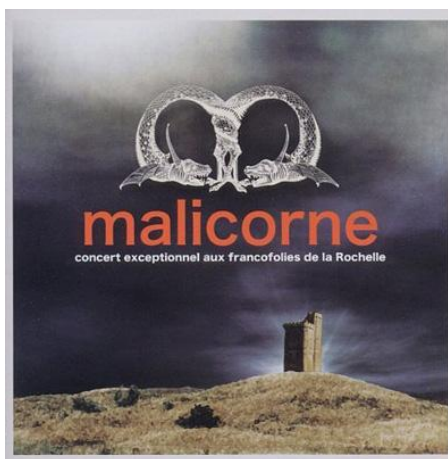
いつのまにか私の意識は目の前のクリスタル・タワーの中に浸透していった。マーラーの大音響は、青空のような開放された空間では呪術性をもたないのだ。タワーの中は虚ろな空洞だった。ティンパニとトロンボーンとコントラバスの地鳴りの様な吼声にあおられて私の意識はどんどんヴァイオリンの高音部、ピッコロの域へと高サイクル化していく。実は高所恐怖症なのに、マーラーにとりつかれた私は激しくのぼりつめて行く。彼の音楽はいくら伸び切っても次から次へとわき出る中音部のために密度が薄まることはない。ウィンドマシンのすさまじい音にまできりもみにされ、私の意識はちょうどアインシュタインの宇宙モデルのようなねじれた円管状の姿になっていく。激しくスピードを

増した、鋭いハイピッチのきりもみは、以前の高血圧の発作の悪寒の前触れのようなものを思いださせる。あまりにもハイになった私の意識は忍耐の限度を越え、自分ではもう制御できなくなった血流と脈動の栗立ちのなかで助けを呼ぼうとした瞬間、頭蓋骨全体をエコールームにしたような、ハンマーの大音響の鉄槌が下る。

耐えられない衝撃の第二波、第三波について私の意識は闇の底からの絶望の触手につかまれて、下へ下へと引きずり下ろされる。まるで穴のあいた落下傘のように私の意識は無重力となり下へ下へとまっさかさまに... 下へ下へと引っ張っていたのは小犬だった。ズボンのすそをくわえてじゃれていたのだ。目覚めた私に気づくと犬もビクっとしたように体をかたくした。そして2メートルほど遠ざかり私の回りを歩きだした。

マーラーは六番の最終楽章で三回打ち鳴らすハンマーについて「芸術家はこうして倒れる」と、妻アルマに言ったという。ブルックナーの膨張しきった牧歌調を粉々に粉砕するマーラーの大ハンマー。私はテクノポリスのクリスタル要塞に君臨するマーラーの大音響に未来の醜悪さと恣意性を見たような気がした瞬間、太陽は西に沈んでいったのだった。

CD レビュー 純正茶寮  
『Live Aux Francofolies』  
純正律音楽研究会理事 黒木朋興



『Live Aux Francofolies』 (2010)

Malicorne

レーベル: GRI F

ASIN: B004K46QHS

JAN : 3300622667429

2010年にラ・ロシェルで行われたMalicorneのライブアルバムである。

Malicorneは、過去にここで何回も紹介しているフランストラッドの雄とも言えるべきバンドであるが、この作品以前では彼らのライブアルバムと言え、1979

年に発表されたカナダのモントリオールでのコンサートの模様を収めた『En public』だけであった。

このアルバムはフランスでのコンサートを収めた唯一のアルバムでもあり、DVDとして映像付きの演奏もリリースされているし、その模様はYou Tube 上でも視聴することができる。

何より、多重声部によるヴォーカルのハモリを重視した楽曲を中心に演奏しているところが素晴らしい。純正律による美しい響きを堪能することができる。個人的に彼らの最高傑作と目している『L'Extraordinaire Tour de France d'Adélarde Rousseau, dit Nivernais la clef des cœurs, Compagnon charpentier du devoir』の一曲目のアカペラ曲「La Conduite」のライブ演奏が聴けるのが嬉しい。スタジオ版では、この曲の最後はアカペラの演奏を器楽が引き継ぐ形になっているが、ここでのヴァージョンは声を中心とした演奏にアレンジされている。

また、楽器演奏に関しても、ハーディーガーディー、クロモンやバグパイプなどの演奏は繊細な微分音が聴ける。これらの古楽器は転調する必要がない分、平均律にはない微妙な音程を奏でるところに特徴がある。

彼らは1986年の『Les Cathédrales de l'industrie』以来、新作のアルバムを出してはおらず、現在のMalicorneは過去の曲をコンサートで演奏するために再結成されたようなのだが、それにしても過去の名曲をライブ演奏で聴けるのは何よりの喜びである。

現在、CDもDVDも入手困難であるが、前述のように、幸いなことにYou Tube 上で視聴できる。映像を見たところ、フィドルで演奏しているとばかり思っていたパートが実はハーディーガーディーであった。故玉木さんに聴かせたところ「このフィドルの調弦はソレソレだと思う」と言っていたが、実はフィドルではなく、ハーディーガーディーであったのだ。

## 私のリモート初演奏

NPO 法人 純正律音楽研究会 理事  
ハープ奏者 三宅美子

リモート幕開だったのか？

今回のコロナ感染対策、外出自粛生活。自宅に籠ってひとり練習あるのみではなかったようですね。

ステイホームを余儀なくされた新日本フィルハーモニーのメンバーによる「テレワーク部」が部活のノリで？「パプリカ」を数人がZoomでやってみたら面白くなり、参加メンバーがどんどん増えて、ついにはeテレ「らららクラシック」でとりあげられ、曲も「パプリカ」から「ウィリアムテル序曲」に。この進化の様子と内情をほぼ連日SNSで読み、YouTubeを見て聴きながらひとり楽しみました。時には懐かしいメンバーが見つかり、涙腺を緩めドライアイを防いでもくれました。

そこで思い出したが、かれこれ30年ほど前の仕事です。すっかり忘れていたので不確かな記憶ですが、リモート演奏初公開実験でした。霞が関ビルの端と端の部屋にピアノとハープがそれぞれ待機して、ドビュッシーの「月の光」をヘッドホンかイヤホンと多分スピーカーからの音を頼りに同時に演奏する実験でした。確かNTTのお仕事だったかしら？

「月の光」はピアノ独奏「ベルガマスク組曲」のなかの一曲で、フランス的なメロディとハーモニーが大変美しく、管楽器や2台のハープでのアレンジでもよく演奏します。ドビュッシーの揺れるようなテンポ感がとても素敵で、フルートとは何度も演奏していましたが、すぐ横に奏者がいても楽しいけれどなかなかスリル満点で緊張する曲です。9月のコンサートにご出演予定のハーモニカ崎元譲さんとの大切なレパートリーでもあります。

そんな曲を指揮者は勿論、TV画面も無く耳だけを頼りに、遠くの見えないピアノと合わすのは本当に大変でした。またたとえTV画面があっても見て弾く余裕もありませんでしたけど。

クリックは始まる前1~2小節だけ。ほとんどピアノソロの様なアレンジ譜でしたが、ユニゾンのところもあり何度かテストをして、霞が関ビルの端っこから端っこ迄走って録音を聴きに行き、そのズレ具合に愕然としました。ただテンポが合わないとか、気が合わないとかではなくて、気配が無いので、余計に聴こう合わせようとしてお互いが縦横にずるっとすり抜けてしまう感じでした。普段のスタジオ仕事では多少離れたブースで弾いていても互いの姿が見えます。イヤホンからの音だけではタイミングが掴めず苦労しましたが、貴重な体験でした。

この実験のあと、多分翌年？頃にはハワイだったかNYとのリモート演奏実験が坂本龍一で予定されていると聞き、10年もしたら自宅でパジャマ姿のままスタジオ仕事ができるようになるんだ、何処に住んでもやっていける！と期待していました。いつのまにか30年以上の月日がたったのですね！

たまたま偶然に「情熱大陸」を見ました。聖路加病院で院内感染対策最前線で奮闘している感染管理専門家、坂本史衣ですって!?!まあ、アメリカで会って以来何十年ぶりでしょう、いとこの娘です!母親似の柔らかい声と微笑みで「1人で寂しく食べておれ!」と言い切った言葉をしっかり守っての自宅軟禁生活も4月中旬からは小曾根真さんのリビングからのライブを毎晩楽しみました。5月31日迄全53回!素晴らしいリモートコンサートライブができる様になりました。玉木さんご存命だったら神戸時代からの小曾根父子のジャズ物語が聞けたのかなと思います。

私の高年齢生徒さん達は何処かの別荘などに疎開し完全収束まで滞在します!なのでネットの具合も定かではないとか、スマホもショートメールと会話だけとか、携帯も無しとか、アナログ古代人ばかり。なので、先生だけは頑張っ  
てZoomで語学レッスンを受けているリモート幕開けです。

## キリスト教の分派（その1旧教）

純正律音楽研究会 正会員  
弁護士 齋藤 昌男

### 目次（全体像）

- 第1. 緒論
- 第2. ローマ・カトリック教会
- 第3. 東方典礼カトリック教会  
(ローマ・カトリック教会と相和して、このため合同教会あるいは帰一教会と称されることがある)
  - 1. マロン派教会  
(レバノンでの最大キリスト教徒)
  - 2. カルデア・カトリック教会  
(イラン中心)
  - 3. メルキド・カトリック教会  
(シリアとエジプト)
  - 4. マラバル・カトリック教会  
(トマス・キリスト教会とも言う) (インド南西ケララ州)
  - 5. コプト・カトリック教会
  - 6. エチオピア・カトリック教会
  - 7. アルメニア・カトリック教会
  - 8. シリア・カトリック教会
  - 9. シリア・マランカラ・カトリック教会
- 第4. 東方正教会
  - 1. ギリシャ正教
  - 2. ロシア正教  
日本、中国、アメリカはロシア正教の傘下に入る。
  - 3. 東欧の正教会
    - (1) ルーマニア正教会
    - (2) グルジア正教会
    - (3) チェコ正教会
    - (4) スロヴァキア正教会
    - (5) ブルガリヤ正教会
    - (6) ポーランド正教会
    - (7) アルバニア正教会
    - (8) ベラルーシ正教会
    - (9) ウクライナ正教会
    - (10) モルドヴァ正教会
    - (11) モンテネグロ正教会
    - (12) マケドニア正教会

## 第5. 東方諸教会

1. シリア正教会
2. アルメニア使徒教会
3. コプト正教会
4. エチオピア教会
5. エリトリア正教会
6. インド正教会 (トマス派)
7. アッシリア東方教会

## 第6. 補則 (修道院について)

### 第1. 緒論

1. 前々から旧教、新教、新宗教を含めてキリスト教界の全体の分派を把握したいと思っておりました。今回は、それに挑戦します。
2. 「キリスト教」を神学的に定義すると、ナザレのイエスを「キリスト」(この世の救い主、ヘブライ語のメシアのギリシャ語訳) とする宗教ということになります。四福音書を中心とする新約聖書の権威と、イエスの教義上の絶対性を認めないと、キリスト教とは言えません。イエスを重要人物とする宗教もキリスト教ではありません。早い話、イスラームは、イエス (イーサー) をアッラーから派遣された預言者のひとりとしていますが、キリスト教ではありません。イエスを釈迦や孔子と並び聖者、神人とする諸宗教 (大本教、バハーイー教など) もキリスト教とは言えません。キリスト教の枠組みから出発しても、これを超える救済者を想定したり、独自の聖典を奉じたりする諸宗教 (マニ教、「グノーシス」諸派など) もキリスト教とは言えません。グノーシスとは古代ギリシャの末期には、神秘的・直観的に神を認識することを言います。但し、上記のキリスト教の定義は、正統・異端の区別とは異なります。正統・異端の区別は、歴史上さまざまな教会、教派を生み出してきた歴史的状況のなかでなされてきたものです。従って正統・異端は、逆転することもあります。

### 第2. ローマ・カトリック教会

- (1) ローマ・カトリックとは、イエスをキリスト (救世主) と信じ、ローマ教皇を最高の首長とするキリスト教会であります。カトリックとはギリシャ語で「普遍なるもの」という意味を有します。
- (2) ユダヤ民族は前6世紀から、バビロニア、ペルシャ、ギリシャの勢力下にあつて迫害を受け、前63年にはローマの支配下に置かれており、ユダヤ人達は終末を待ち望み、新たな神の国のメシア (救世主) の出現を期待していました。
- (3) ここに登場したイエスは、ユダヤ社会で穢れた存在として罪人扱いされていた病人 (ハンセン氏病患者、長血を患う女など)、身体障害者、徴税人、売春婦などに対し福音を説き、過激な平等主義を唱えました。この為、ユダヤのあらゆる階層から最も危険人物とみなされ、イエスは反ローマ帝国の政治的なメシア運動の中心人物として訴えられて、ローマ総

- 督ピラトによって十字架刑に処せられました。
- (4) イエスは死後40日間にわたって弟子達の間姿を現したと言われ、その復活はメシア信仰と結びつき、ユダヤ人のみならず全人類の救世主であるとの確信が生まれました。この復活の信仰によってペトロ、ヨハネ、ヤコブらを中心として宣教活動が開始され、この時点がキリスト教の発生時点であったと考えられます。その後キリスト教は地中海世界へ勢力拡大しますが、その時に最も貢献したのはパウロでありました。
  - (5) 原始キリスト教会は、ユダヤ教徒からもローマ人からも迫害を受け、カタコンベ (Catacomb、地下集会所) などで集会を開いておりました。紀元後66年には、ローマ帝国に対するユダヤ戦争が始まりましたが、70年にはエルサレムは完全に破壊され、ユダヤ教徒はエルサレムから追放され、こうしてキリスト教徒は、その母胎であったユダヤ教から完全に独立したと言えます。
  - (6) ローマ帝国内におけるキリスト教の急速な浸透に対し、249年デキウス帝は皇帝崇拝を強制しましたが、キリスト教徒の強い抵抗にあいました。その後ヴァレリアヌス帝の迫害、さらに4世紀初頭にはディオクレティアヌス帝の迫害がありました。しかし、キリスト教徒の結束は一層高まり、313年コンスタンティヌス帝はミラノ勅令を出してキリスト教を公認し、テオドシウス帝は392年キリスト教を国教としました。
  - (7) (三位一体論) 4世紀から5世紀にかけて、キリスト教における重大な論争が行われました。ニカイヤ (325年) およびコンスタンティノーブル公会議 (381年) では三位一体論が主として論じられました。父なる神を認めないアリウス派、神性と人性を分離したネストリウス派、人性を認めない単性論派、キリストの歴史性を否定するグノーシス主義が異端とされました。父なる神に、子なるイエスを同質とみなすアタナシウスの説が正統とされ、父と子と精霊が一体であるとする「三位一体説」が正統教義として確立しました。
  - (8) (東西教会分裂) キリスト教会は勢力の拡大に伴い、ローマ、コンスタンチノーブル、アレクサンドリア、アンティオキア、エルサレムの5大教区に分かれましたが、前二者が強大となり、ローマは西方教会 (ローマ・カトリック教会)、コンスタンチノーブルは東方教会 (ギリシャ正教) として独自の発展を遂げました。451年カルゲトン公会議でローマ大司教 (教皇) はコンスタンチノーブルの大司教の上に立つと決定し、対立を深めました。726年ビザンツ皇帝レオン3世が聖像崇拝禁止令を出す、その対立はさらに表面化しました。1054年、ローマ教皇とコンスタンチノーブル総大主教が相互に破門状を交付し、両教会は完全分離するに至りました。
  - (9) 2世紀から13世紀は、ローマ・カトリック教会の最盛期と言われています。
    - ① グレゴリウス7世 (ローマ教皇在任は1073年-85年) を筆頭として、聖職売買の禁止や聖職叙任権闘争をはじめとして、教皇が神聖ローマ皇帝との権威論争を行いました。

- ② (カノッサの屈辱)  
 1076年2月、教皇グレゴリウス7世は、神聖ローマ皇帝ハインリッヒ4世を破門しました。1076年10月、ドイツ諸侯は満1年以内に破門解除されない場合は国王廃位と決議しました。この為、皇帝ハインリッヒ4世は、アルプスを越え、教皇の滞在するカノッサ城門の前で、1077年1月25-27日の3日間、修道衣をまとい裸足で雪中に立ち、赦しを乞い赦免されました。これをカノッサの屈辱 (Penance at Canossa) と言います。
- ③ ローマ教皇の指導の下、十字軍遠征 (1096年以後) が組織されました。
- ④ アッシジのフランチェスコ (1181年-1226年) の清貧運動 (徹底した無所有・自己放棄) もこの時代です。
- ⑤ 教皇インノケンティウス3世 (教皇在任1198年-1216年) は、史上初めてキリストの代理人の称号を用い、世俗権に対する教権の絶対的優位を主張しました。
- ⑥ 大学創設 (12世紀ルネサンス)、大聖堂の建設ラッシュがありました。
- (10) 14世紀にはいと、ローマ・カトリック教会の繁栄もかげりを見せはじめました。
- ① 教皇のアヴィニヨン幽囚、1309年-77年)  
 ローマ教皇が一時疎開をしたアヴィニヨンの教皇庁が継続的に置かれました。「教会のバビロニア捕囚」と呼ばれています。
- ② 教会大分裂 (1378年-1412年)  
 1377年グレゴリウス11世 (在位70年-78年) のローマ帰還後も、アヴィニヨンでは、クレメンス7世とベネディクトゥス13世が対立教皇として選出されました。
- ③ アナーニ事件 (1302年)  
 イタリアのアナーニ出身のボニファティウス8世 (在任1294年-1303年) は、教皇の絶対的至上論者でありましたが、当時のフランス王フィリップ4世とフランス国内の教皇課税をめぐる抗争となりましたが、国王勢力が優位に傾き、1303年アナーニ滞在中、国王一派に幽閉されました。
- ④ 14世紀以後は、黒死病の流行により、人口が激減しました。ヨーロッパの人口は、3分の1減少したと言われております。
- (11) 上記の教会大分裂に象徴される混乱を收拾するのが、1414年に招集されたコンスタンツ公会議です。教皇ではなく「公会議主義」とよばれる合議制の決議によって問題の收拾がはかられました。
- (12) 15世紀中頃再び「教皇至上主義」が台頭し、16世紀までルネッサンス教皇と呼ばれる諸教皇による芸術的開花を生み出しました。
- (13) 一方、司教、聖職者の管轄のもとにおかれぬ信徒の自主的運営組織として、13世紀のイタリア都市コムーネに範を取り、16世紀までに西ヨーロッパ全域で「信徒信心会」(confraternitas 〈ラ〉、brotherhood 〈英〉) が多様な発展をとげ、教会に新たな生命力を注い



だことが指摘されています。

- (14) ローマ・カトリック教会の教勢は、「大航海時代」とよばれるイベリア半島諸国の海外進出とともに世界的な飛躍を遂げました。この時、日本へも宣教師が来ています(1549年8月15日)。一方、新大陸におけるスペイン人のインディオへの対応に憤慨したドミニコ会士ラス・カサス(Las Casas、1484年—1566年)による告発があります。
- (15) (宗教改革) 1517年にはじまるルターの福音主義運動は、キリスト教界の統一を揺るがせました。以下の3つが主たる誘因となっています。
- ① ヨーロッパ諸侯の教会勢力に対抗するだけの力の蓄積
  - ② 15世紀に登場した活版印刷機の普及による広範な民衆強化の成功
  - ③ カトリック世界においても「改革」待望の機運が15世紀のコンスタンツ公会議以後意識されていたこと
- (16) カトリック、プロテスタント両陣営は、やがてヨーロッパの絶対主義の宮廷政治と結びつきを深めました。そして「領主の宗教は領民の宗教」(cuius regio, eius religio)の原則が尊重され、アウグスブルグの宗教和議(1555年)となりました。同和議は、ドイツにおけるカトリック、プロテスタント両派の対立を調停すべくアウグスブルグに招集された帝国議会の決議のことを言います。その内容は次の通りです。
- ① 諸侯および帝国都市は新旧両派のいずれかを選択する権利をもち、住民は彼らの選択した宗派を信奉しなければならない。それを欲しないものは、他に移住しうる。しかし、ルター派以外の新教は禁止される。
  - ② カトリックの大司教や司教がルター派に改宗するときはその地位と領土を失い、カトリック派の後継者が任命される。
  - ③ 1582年(バツサウ帝国議会)前に没収された教会領は現行のままとするが、それ以後に没収されたものは旧に復すること等。  
この和議により宗教改革運動以来の両派の対立は一応終熄しましたが、不徹底であったため、三十年戦争(1618年—1648年)の勃発を招く一因となりました。
- (17) 19世紀のピウス9世の治世は、カトリック教会の再生をめざした企てに終始しました。ピウス9世の治世で教会領を放棄した教会は、イタリア政府とのコンコルダート(政治協約)により、ヴァチカン市国のみ限定されることになりました。
- (18) ヴァチカン公会議(第一)は、1869年に開催され、教皇の首位権の再確認、教皇の不可謬性、理性と啓示(信仰)の相互関係の強調、新しい教義の宣言等を行いました。
- (19) 1948年、世界教会協議会(World Council of Churches、略称WCC)が設立されました。120カ国以上の正教会、聖公会、プロテスタントの諸教会から構成されています。
- (20) 1054年に分裂した東西教会も1963年には相互に破門を解いて

和解をしました。

- (21) 1963年から1965年にかけて第2回ヴァチカン公会議が開催されました。科学・技術の進歩と、世俗化した現代社会に対応してゆくものです。
- (22) ローマ・カトリック教会の特色として、最後に触れておかなければならないのは、秘跡（サクラメント）中心主義であります。伝統的な七つの秘跡（サクラメント＝洗礼・堅信・聖体・婚姻・叙階・病者の塗油・悔悛）中心主義であります。プロテスタント諸教会にも洗礼、聖餐などの聖礼典が定められていますが、聖書中心主義であります。
- (23) ローマ・カトリック教会には、（2006年国連などのデータに基づくヴァチカン統計）全世界人口65億人のうち17.4パーセント（1億3千万人）（イスラームの19パーセントに次ぐ、キリスト教諸派合計では全体の3分の1以上）であります。

### 第3. 東方典礼カトリック教会

ここでの「東方典礼カトリック教会」とは、かつて東方教会あるいは東方諸教会に分類されましたが、その後ローマ教皇の首位権などを認めてローマ・カトリック教会と相和し（このため合同教会あるいは帰一教会と称されることがあります。なおローマ・カトリック教会はこれをカトリック東方教会と総称しています）、かつ典礼面で東方典礼（つまり、ローマ・カトリック教会の主要な典礼であるラテン典礼と異なる典礼）を保つ一群の教会をさします。

#### 1. マロン派教会 (Maronites)

マロン派教会は、同教会自身の伝承によれば、4世紀末から5世紀初頭にかけてアンティオキア主教などとして活躍した教父ヨアンネス・クリュソストモスと交流があったとされる聖マロンにちなんで創建されました。修道院の活動に由来するとされます。685年には、レバノン山の北方地域にシリア人のキリスト教徒の一団が移住し、初めは単意説でありましたが、1181年に単意説を捨ててローマ教会に帰順しました。1516年にローマ教会より再承認を得ました。東方典礼カトリックとしては少数であっても、レバノンでは、最大のキリスト教徒です。

#### 2. カルデア・カトリック教会 (Chaldean Church)

シリア・カルデア教会 (Syro-Chaldean Church) ともいいます。今日ではイラクを中心として、イラン、中東、アフリカに拡がります。ネストリオス派として5世紀にビザンティン正教会から独立したカルデア教会は、16世紀にローマ・カトリックと合同を望む気運が強まり、1692年ローマと一致しました。「カルデア」の語は最初に教皇エウゲニウス4世（在位1431－47）が東シリアのカトリック教会に使ったものです。なお「カルデア典礼」の語は「東シリア典礼」の総称としても用いられます。バグダッドに「カルデアのバビロニア総主教」の座があります。典礼言語には東シリア語、アラビア語を使用します。（オックスフォードキリスト教辞典201ページ参照）

なお、この教会は中国にまで及ぶ東方宣教を行うなどして、中国では景

教と呼ばれました。

3. メルキト・カトリック教会 (メルキト派) (Melkites (Melchites))

キリスト単性論を否定し、451年のカルケドン定式を受け入れ、コンスタンティノポリス主教座と一体をなす、シリアとエジプトのキリスト教徒をいいます。今日ではこの語は、アンティオキア、エルサレム、アレクサンドリアの総主教座に属しつつ、(特にカトリック東方教会員ではあるが、正教会員でもある) ビザンティン典礼のキリスト教徒を指します。(オックスフォード キリスト教辞典 826 ページ参照)

4. マラバル・カトリック教会 (トマス・キリスト教徒)

(Malabar Christians (Thomas Christians))

広義では、インド西南部のケララ州に住むシリア式典礼を守るすべてのキリスト教会を指し、狭義では、ローマと一体をなす教会(「シリア・マラバル教会」[Syro-Malabar Church])を指します。どの教会も使徒聖トマスにより創設されたと主張しますが、6世紀より以前にインドにキリスト教徒がいた確実な証拠はありません。彼らはおそらく最初は東シリアから来たのであろうと言われています。(オックスフォード キリスト教辞典 796 ページ参照)

また、下記の指摘もあります。

「トマス・キリスト教会は歴史的に分裂を重ねたにもかかわらず、起原の伝承をアイデンティティの核として、現代インドにおけるキリスト教の展開に寄与している。」(岩波キリスト教辞典 818 ページ)

上記の他に、下記のカトリック教会があります(丸善出版発行、世界宗教百科事典 114 ページ参照)。

5. コプト・カトリック教会

6. エチオピア・カトリック教会

7. アルメニア・カトリック教会

8. シリア・カトリック教会

9. シリア・マランカラ・カトリック教会

第4. 東方正教会 (Orthodox Church)

(概説)

① 4世紀初頭のローマ皇帝コンスタンティヌス1世の改宗以降、キリスト教がローマ帝国における特権的宗教、さらには国教となりました。そしてビザンツ帝国 (the Byzantine Empire) (330年—1453年) (ギリシャ語(コイネ))を公用語にギリシア人、スラブ人、アルメニア人を主たる人種的構成要素とするキリスト教帝国で、東ローマ帝国とも呼ばれます) などからの宣教によってキリスト教が伝播しました。紀元330年、コンスタンティヌス1世が、東方におけるキリスト教の中心地としてコンスタンティノーブルと称す都(現在のイスタンブール)を建設しました。

② しかし、中世に教義上の大論争がありました。即ち、フィリオクエ (filioque) 論争で、フィリオクエというのはラテン語で「そして御子からも」との意味ですが、「聖霊の二重の発出」を示す教義的な表現で、

西方教会によりニカイヤ信条の「聖霊は御父から発出し」の「御父」の直後に付加されました。これが西方教会に対する東方教会による批判の主要な根拠となりました。その他、教会政治上の争いもあり、コンスタンティノープル総主教座を中心とするビザンツ教会とローマ教会とは、1054年、袂をわかつにいたりしました。そして東西両教派は別々に活動することになりました。

- ③ 東方正教会全体としての一体性は、基本的に教義の面に限られます。「正教」という言葉は「正しい信仰」を意味しますが、東方正教会の連合体内にある教会の大半は、ギリシャ、ロシア、ルーマニア及びジョージア（旧グルジア）にある教会です。
- ④ また、シリア、エジプト、エチオピアにも小規模の教会グループが存在しますが、教義が多少違いキリスト単性論という立場を取っているため、東方諸教会と呼ばれています。この為、単性論派教会は、現在、オリエンタル・オーソドックスと自称することもあります。
- ⑤ また Eastern Christianity（東方キリスト教）という言葉もあり、これはオーソドックスと東方諸教会の総称であります。また、世界中の東方教会の総体をさして「ギリシャ正教」という表現が用いられることがありますので、注意が必要です。
- ⑥ 東方正教会は、典礼（宗教的儀式）に関して強い意識をもっています。聖体礼儀（Eucharist）は東方正教会において礼拝を構成する要素の一つとなっています。従って、ローマ・カトリック教会と共通する点も多く、例えば東方教会はいわゆる機密（カトリックの用語では秘跡、以下<sup>ふ</sup>と表示）として洗礼、  
傳膏（<sup>ふ</sup>堅信）、聖体礼儀（<sup>ふ</sup>聖体拝領）、痛悔（<sup>ふ</sup>悔悛）、婚配（<sup>ふ</sup>婚姻）、神品（<sup>ふ</sup>叙階）、聖傳（<sup>ふ</sup>終油あるいは病者の塗油）の7種を有し、これらは共通しています（丸善出版発行、世界宗教百科事典119ページ）。
- ⑦ 東方正教会では、教会の建物が十字形に形づくられていることが多くあります。また東方正教会系教会のもう一つの大きな特徴は、教会堂の内壁を飾るイコン（聖像）であります。イコンというのは、イエス・キリストや聖人、使徒などの絵を木の板に描いたものですが、その背景を金色に彩色していることが多くあります。  
東方正教会のもう一つの特徴となっているのがイコノスタシスと呼ばれるもので、イコンで飾られた大きな遮壁で、礼拝に集まった会衆と祭壇とを隔てるものです。

#### 1. ギリシャ正教 (Greek Orthodox Church)

- (1) 世界中の東方教会の総体をさして「ギリシャ正教」という表現が用いられることもありますが、ここでは、そのなかの一つの独立教会としての「ギリシャ正教」を指します。
- (2) ギリシャ正教は、ギリシャ共和国の 国教ですが、同国内のドデカネ

ス諸島、クレタ島およびアトス山 (Athos) は、ギリシヤ正教会を統括するアテネ大主教ではなく、コンスタンティノポリスの総主教の管轄下にあります。理由は、上記以外の地域も、もともとコンスタンティノポリスの総主教の管轄下にありましたが、19世紀にトルコからの独立運動のときに、アテネ大主教を作り独立してアテネ大主教の管轄下に入ったからです。

- (3) 新約聖書の使徒言行録の記録にある 教会は、すべて4世紀にローマ帝国がキリスト教を国教としたときにできた管轄区の中におさまりました。5大総主教区は、ローマの総主教区がローマ・カトリック教会となり、アンティオキア、アレクサンドリア、エルサレムの総主教区がイスラーム支配下に入り、コンスタンティノポリスの総主教区だけが、ビザンティン帝国の国教として15世紀まで存続しました。
- (4) ギリシヤ正教会の前身  
キリスト教はローマ帝国によって公認され(313年)、帝国の国教となりました(392年)。東西ローマ帝国の分裂(395年)を経て、西ローマ帝国が滅亡(476年)すると、東ローマ帝国(ビザンツ帝国)は、ローマ帝国の継承者として首都コンスタンティノポリスを中心として発展を遂げました。キリスト教会は、五大総主教座のうちで西方に位置したローマ総主教座を中心としたカトリック教会と、その他4つの総主教座のなかで指導的役割を果たしたコンスタンティノポリス総主教座を中心として正教会が、それぞれ独自の道を歩むことになりました。一般的には、1054年の相互破門をもって東西教会は分裂したとされます。ローマ教皇の首位論、聖霊の発生論、イコノクラスム(聖像破壊)、典礼形式や使用言語、聖職者の妻帯など論点は幾つかありました。
- (5) 1204年に第4回十字軍による帝国コンスタンティノポリスの占領  
コンスタンティノポリスにラテン帝国が樹立された事件は、正教会側のカトリック教会への不信感を決定的なものとししました。ラテン帝国からコンスタンティノポリスが奪回(1261年)された後、東西教会の合同がしばしば試みられましたが、いずれも成功しませんでした。1453年オスマン帝国によるコンスタンティノポリスの陥落をもってビザンティン帝国は滅亡しました。
- (6) 近現代ギリシヤのキリスト教  
15世紀半ばにビザンティン帝国がオスマン帝国の支配下に入ると、コンスタンティノポリス総主教は、そのままオスマン・トルコの行政管理の単位として存続することになりました。トルコの支配下にあっても正教は存続し、コンスタンティノポリス総主教はやはりトルコの支配下にあったバルカンの国々を指導する立場にありました。  
19世紀にトルコからの独立運動が、現在のギリシヤの地域からさかんになると、紛争が起きるたびにコンスタンティノポリスの総主教が責任を取らされるという事態になったために、コンスタンティノポリスの総主教は、問題解決のためにアテネの大主教をまとめ役として、ギリシヤ正教の独立を認めました。

(7) アトス山

ギリシヤ北部ハルキデイキ半島に位置するアトス山は、大ラヴラ修道院の設立（963年）以来、数多くの修道院と僧庵が建てられ、正教会による修道制の中心的役割を果たしてきました。アトス山は初期の段階から今日にいたるまで自治領として治外法権が認められています。現在アトス山には20の修道院が存続し、約1,650名の僧が厳しい戒律を守り修道生活を営んでおります。女人禁制で、ユネスコ世界遺産（1988年登録、自然文化複合資産）となっています。ロシア正教もアトス山に修道院を持っています。

2. ロシア正教会

(1) 正教がロシアの国教となったのは、10世紀の終わりであります。キエフ（現、ウクライナの首都）の大公ウラジーミル1世がコンスタンティノポリスから皇后アンナを妃として迎えるために洗礼を受けたことから正教がロシアの国教となりました。50年もたたないうちにキエフの洞窟修道院がさかんになりました。また聖職者、建築家、聖像画師弟などがロシアを訪れるようになりました。

(2) モンゴルの襲来

13世紀の初頭にモンゴルの襲来があつて、キエフ朝ロシアは各都市を中心とした公国に分かれました。

(3) 1299年に北東のモスクワに府主教座が移されました。

モスクワ公国は領土拡張、人口増大、軍事力強化により力を付けてゆきました。さらに14世紀には集住式の修道院が建てられました。

(4) カトリック化したリトワ公国（現リトアニア）とモンゴル軍に囲まれてモスクワ教会は、独立性と民族性を強めました。

(5) 1448年、モスクワ大公ワシーリー2世は、コンスタンティノポリス総主教の許可なくして新たな府主教を選出しました。

(6) 1453年ビザンツ帝国は滅亡しました。

(7) 1589年、モスクワ府主教座が総主教座に昇格しました。ここに独立のロシア正教会が誕生しました。

3. 東欧の正教会その他

ギリシヤ正教、ロシア正教の他に、東欧に下記の正教会が存在します。（丸善出版発行、世界宗教百科事典、126ページ及び127ページ）

(1) ルーマニア正教会

(2) グルジア正教会

(3) チェコ正教会

(4) スロヴァキア正教会

(5) ブルガリヤ正教会

(6) ポーランド正教会

(7) アルバニア正教会

(8) ベラルーシ正教会

(9) ウクライナ正教会

(10) モルドヴァ正教会

(11) モンテネグロ正教会

(12) マケドニア正教会

東欧の他に正教会は、アメリカにも独立教会として認められています。アメリカ、日本、中国は、ロシア正教の下に属しています。日本への布教は函館のロシア領事館付主任司祭ニコライ (Nikolai) の来日 (1861年) に始まるとされます。1869年に日本宣教団が設立されました。現在、日本正教会は、ロシア正教会を母教会とする自治教会です。

これらを合わせて、現在東方正教会は、全世界で三億人ほどの信徒を擁しています。

## 第5. 東方諸教会

(概要)

① 東方諸教会とは、451年のカルゲドン公会議の決議に反発して、コンスタンティノーブル総主教座を中心とする教会 (ビザンツ教会) から離反したキリスト教の諸教会をさします。シリア正教会、コプト正教会、エチオピア教会、アルメニア使徒教会などがあります。各々独自の歴史を有するこれらの諸教会は、カルゲドン公会議 (451年) で正統的とされた両性論的キリスト論に反対する立場を標榜し、いわゆる単性論派 (キリスト論との関連でキリストの神性と人性のかかわり方について神性の優越を主張する立場) に分類される以外には、なんら統一性はありません。しかし、これらの教会は、キリスト教の古代的特徴を保存・伝承しているため、キリスト教の元来のありようを考えるうえでこれらの諸教会は重要な示唆を与えております。(丸善出版発行、世界宗教百科事典128ページ参照)。

② キリスト単性論 (キリスト教の「神性」と「人性」を説く) の立場に立つ諸教会はシルクロードを経て唐代中国に「景教」として伝わり、インドに「トマス派キリスト教」として伝わりました。単性論の流れを汲む諸教会 (非カルケドン派) は現在でもエジプトからインドにかけて存続しています。

### 1. シリア正教会 (Syrian Church)

オリエンタル・オーソドックス、即ち単性説派の諸教会の中で、セコブ・パラダイオス (6世紀) によって創設されたヤコブ派の教会のことを言います。シリア、メソポタミアを中心に発展しました。インドに庇護下に置く教区・教会組織があるほか、現在では海外への移民を通じ、欧米にも教会が存在します。

名目上の総主教座はアンティオキアにありますが、現在の所在地はダマスカスにあります。総主教庁の名義はアンティオキア総主教庁であり、現在に至るまでギリシャ正教のアンティオキア総主教庁と並立する態をなしています。

### 2. アルメニア使徒教会 (Armenian Apostolic Church) (アルメニア正教会)

アルメニアにキリスト教がもたらされ、浸透した歴史は非常に古く、301年、アルメニア王国が世界に先駆けてキリスト教を初めて公認し、キリスト教を国教と決めました。これは313年のミラノ勅令よりもさらに

10年以上前の出来事でありました。伝承によれば、イエス・キリストの使徒タダイとバルトロマイ兩人により初めてキリスト教がもたらされたと伝えられています。

5世紀には、アルメニア語のためのアルファベット（アルメニア文字）が作られ、新約聖書と箴言の翻訳が行われました。また、ギリシャ語とシリア語が混在して典礼用語も整理され、教会組織も整備されました。

しかし、5世紀には、ササン朝ペルシヤ、7世紀にはイスラム帝国、11世紀末にはセルジューク朝に弾圧され、16世紀以降は、イランのサファヴィー朝、オスマン帝国、帝政ロシアに分割を余儀なくされました。

アルメニア人虐殺は、1915年から1917年には、当時のオスマン帝国領東アナトリアに於いて、一説には数十万から数百万人ものアルメニア人が犠牲になったと伝えられています。

現在、信者はアルメニア共和国を中心として、トルコ、イラン、アゼルバイジャン、イラク、シリア、レバノン、パレスチナのほか、19世紀以降の移民が多く住むフランス、アメリカ合衆国等、世界各地にコミュニティを形成しています。特にエルサレムやイスファハーンにはアルメニア人地区があります。そして全世界で約500万人の信者を擁しています。

なお、東方典礼カトリック教会であるアルメニア・カトリック教会（Armenian Catholic Church）とは別組織であります。

### 3. コプト正教会（Coptic Orthodox Church）

#### （1）概要

「コプト」とはエジプトの古い呼名です。コプト語で奉神礼を行います。主にエジプトに分布しますが、移民を通じて、エジプト国外にも広がりを見せています。

ニカイヤ・コンスタンティノポリス信条を告白し、マリアを神の母として崇敬し、「マタイによる福音書」に聖家族のエジプト逃避の記事があることから、コプト教会におけるマリア崇敬は極めて盛んであります（ウィキペディアより）。

#### （2）エジプトにおける事件

##### ① ハーリド・サイード事件

2010年に起きた2人の警察官による暴行殺人事件

##### ② コプト教会爆破事件

2011年、アレクサンドリアの教会前で自動車に仕掛けられた爆弾が爆発。27人が死亡、49人が負傷。

#### （3）日本国内における活動

2004年から「聖ジョージ日本コプト正教会」が日本で礼拝を行っています。教会管区はオーストラリアのシドニー司法区に属します。エジプト人、スーダン人、エチオピア人のコプト信者が留学で来日している人や、その他仕事や結婚で来ているエジプト人のコプト信者が日本にいます。

#### （4）沿革

伝承では1世紀（42年頃）マルコがエジプトのアレクサンドリアに建てた教会からスタートしました。451年カルケドン公会議の後、カルケ



ドン派（現在のキリスト教多数派）から分かれ、カルケドン派と非カルケドン派の対立は次第に深刻さを増し、6世紀後半には非カルケドン派の分離教会がシリヤやエジプトで相次いで設立されました。

現在、エジプト、エチオピア及びエリトリア、アメリカ、オーストラリアを中心に総計5千万人のコプト系キリスト教徒がいます。エジプトにおけるコプト正教会信者の割合は、統計上5パーセントであります。実際は1割であると言われております。

#### 4. エチオピア正教会 (Ethiopian Orthodox Church)

エチオピア正教会はサハラ南で唯一、植民地時代以前から存在する教会であります。4世紀前半、遭難してエチオピアの王の奴隷となったフェニキアのフルメンテイオスとその弟アイデシオスが、王の信頼を得ながらキリスト教を伝えたのが始まりとされています。4世紀半ばには王エザーナーがキリスト教に改宗しました。大主教はアレクサンドリアの総主教が任命するコプト（エジプト）人で、エジプトの教会が単性説に立つようになってからは、エチオピア教会も反カルケドン派となりました。1959年ようやくコプト教会から自治独立教会の地位を得て、エチオピア人が総主教（カトリコス）になりました。1974年にエチオピアで革命が起こり社会主義化しましたが、国民のほぼ半数（1975年で約1400万人）で、非カルケドン派では、最大の教派であります。

#### 5. エリトリア正教会

エリトリアがエチオピアから独立したのに伴い、エチオピア正教会から独立して成立した教会です。

#### 6. インド正教会（トマス派）

南インドのマラバル海岸一帯に分布している教会です。

#### 7. アッシリア東方教会

ネストリウス派に起源を持つ教会で、主にイラク、トルコに分布し、アメリカにも進出しています。東方典礼カトリック教会であるカルデア典礼カトリック教会とは別の組織であります。

### 第6. 補則（修道院について）

キリスト教自体が地中海世界東部で発展したように、キリスト教修道制もまず地中海世界東部（エジプトおよびシリア）で成立を見ました。それがだんだんと共住制（今日の修道院）に変わって来た訳です。ローマ・カトリック教会及びオーソドックス教会を論ずるときには、どうしても触れなければならない問題です。しかし、紙数の関係で、別途論ずることにします。

以上

2020年4月15日脱稿

## 今後のスケジュール

### 【癒しの音楽コンサート】

2020年9月26日(土曜日)14時開演

会場：山崎製パン 飯島藤十郎社主記念 LLC ホール



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5317-0291 FAX：03-5317-0289

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp <http://just-int.com/>

2020年5月29日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会

編集：相坂政夫

\*純正律音楽研究会 YouTube チャンネルを開設しました。

コンサートや CD 紹介の映像が当会ホームページからご覧いただけます。

<http://just-int.com/>